

2017年11月2日～10日にフランス・ボルドーで行われた「第17回日海洋学シンポジウム」において、NPO 日仏子供ヴィジョン代表コリーヌ・ブレと『重なる水平線』で取材・協力いただいた畠山政則氏と山内宏泰氏がそれぞれ発表を行いました。

「第17回日海洋学シンポジウム」は、「海洋・沿岸環境におけるシステム変化、並びにその生物学的多様性」と「自然要因及び地域人的活動による気候変動の影響」をメインテーマに据え、「気候変動、自然災害による不測の事態、人的活動による脆弱性」という基軸において展開されたもので、主にフランスと日本における科学関連団体及び企業が参加しました。

畠山政則氏からは、2011年に起きた津波の影響と牡蠣養殖の復興事業について報告がなされ、大きくて甘みが特徴の「Karakuwa brand oyster “Momare Kaki”」唐桑ブランド牡蠣の育成プロセスと管理体制についても紹介されました。またその復興においてフランスからのサポートがあり、日本とフランスが海洋そして牡蠣によってつながっていることが伝えられました。

山内宏泰氏からは、気仙沼古来の文化と津波の歴史について紹介され、2011年の津波で大きな被害があったこと、そして気仙沼に開設された東日本大震災についての記録と記憶を展示するリアス・アーク美術館についても紹介されました。まとめとしていかに自然と共存し生活や文化を守っていくかということの提言がなされました。

コリーヌ・ブレからは、気仙沼とアルカッション湾の環境が類似する点について紹介され、共通に抱える問題点や展望について『重なる水平線』でご協力いただいた方々を通して具体的に報告しました。

三者の報告は海洋の専門家たちにも高く評価していただき、日本とフランスの架け橋となれたのではないかと考えております。

畠山政則

<http://colloquebordeaux2017.socfjp.com/wp-content/uploads/2017/11/Hakateyamafinal.pdf>

山内宏泰

<http://colloquebordeaux2017.socfjp.com/wp-content/uploads/2017/11/Yamauchi.pdf>

コリーヌ・ブレ

<http://colloquebordeaux2017.socfjp.com/wp-content/uploads/2017/11/Bret.pdf>

記事は <http://colloquebordeaux2017.socfjp.com/ja/813-2/> より一部引用

日仏海洋学会：<http://www.sfjo-lamer.org/>